



月2回刊=1442号  
2015年8月15日 発行  
発行日 毎月15日30日  
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合  
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジロー印刷企画 一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

ますます保障充実  
入院、通院、手術から  
診断書料補助まで  
トータルに保障します。  
[不慮の事故/病気の場合]  
**日帰り入院保障**  
じちろうの団体生命共済  
自治労共済本部  
詳しくは所属する組合まで

### 2015人事院勧告

# 2年連続の引き上げも「まやかし」か!

## 官民較差「1460円」も、実際の月例給配分「280円」、地方の格差拡大が問題

人事院は8月6日夕方、月例給の官民較差0.36%に基づき、月例給を平均で1469円、一時金については0.1月引き上げる勧告を行った。今春闘における民間の賃上げを踏まえての引き上げとなり、月例給と一時金とも2年連続での引き上げは24年ぶりとなるが、「多くのまやかし」を含む問題のある勧告だ。



8月4日に行われた委員長クラスと人事院総裁（左側中央）との交渉

今年の勧告は「給与制度の総合的見直し」導入後の国家公務員に対しての勧告であり、制度導入前の本県

は引き下げとなることから、民間との格差があっても基本給に正しく反映されない、「まやかし」の引き上げ勧告であると言わざるを得ない。

**地域手当の支給割合引き上げ、月例給の引き上げ分はわずか**

官民較差による改定として、行(一)俸給表では平均0.4%引き上げるとしたものの、実際に俸給表へ配分される原資は280円にとどまり、1156円は「地域手当の前倒し(4月遡及)改定」に配分することとしている。本来であれば、官民較差は基本給である俸給表の引き上げで解消すべきである。また、地方公務員の場合、岩手をはじ

### 1 給与勧告の骨子

#### ●ポイント

- (1) 月例給・ボーナスとも引き上げ
  - 民間給与との較差0.36%を埋めるため、俸給表を改定するとともに、地域手当の支給割合を引き上げ。
  - ボーナスを引上げ(0.1月分)。民間の支給状況等を踏まえ勤奨手当に配分
- (2) 給与制度の総合的見直し(2016年度に実施する措置)
  - 地域手当の支給割合の引き上げ
  - 単身赴任手当の支給額の引き上げ

●民間給与との比較  
 <月例給>民間との較差 1,469円(0.36%)  
 行政職(一) 現行平均給与 408,996円(43.5歳)  
 行(一)について、初任給・若年層を2,500円引き上げ。高年齢は1,100円の引き上げを基本。他の俸給表も行(一)との均衡を基本に改定。  
 <ボーナス>民間の支給割合 4.21月  
 民間支給割合に見合うよう 4.10月→4.20月に引上げ

	6月期	12月期
今年期末手当	1.225月(支給済み)	1.375月(改定なし)
勤奨手当	0.75月(支給済み)	0.85月(現行0.75月)
来年期末手当	1.225月	1.375月
勤奨手当	0.80月	0.80月

- 実施時期 月例給：2015年4月1日  
ボーナス：法律の公布日
- 給与制度の総合的見直し  
今年4月に実施。今後、諸手当の見直しを段階的に実施する。
  - 地域手当の支給割合の改定
  - 単身赴任手当の支給額の改定  
基礎額4,000円増額(26,000円→30,000円)  
加算額12,000円増額(58,000円→70,000円)

### 2 勤務時間に関する勧告の骨子

#### ●ポイント

- 全ての職員を対象にフレックスタイム制を拡充
- 必要性  
柔軟で多様な勤務形態により、公務能率の一層の向上、仕事と育児や介護等の両立を推進し、人材確保にも資する。
- 拡充の概要  
支障のない範囲で4週間ごとの期間につき勤務時間を割り振ることができる。コアタイムは5時間設定。
- 留意点  
効率的かつ柔軟な働き方が推進され、効率的なサービスを提供  
超過勤務を縮減する方向での働き方の推進
- 実施時期 平成28年4月1日

### <解説>

●月例給  
 国公では給与制度の総合的見直しが入り、現給保障が行われているため、俸給表改定の影響が少ないことから、地域手当に厚く配分することとしている。  
 1,469円のうち、280円を俸給表、1,156円を地域手当としている。(33円は超勤等諸手当増分)

●ボーナス  
 引上げ分を勤奨手当に配分することにより、評価制度や休業などによる調整での影響が大きくなることから、問題視されている。

●実施時期  
 月例給は4月に遡及して改定(差額支給)。ボーナスは12月期に増額支給となる。

●給与制度の総合的見直し  
 国では昨年の勧告により今年4月から実施されている。手当改定は地域手当が反映されていない地方への配分として、改定されるもの。

●フレックスタイム  
 コアタイムを中心に職員が出勤・退勤時間を選択し、勤務時間帯を選ぶことが出来る。効率的な業務になるが、勤務時間があいまいになり、超過勤務が増えるとの懸念もある。

め全国の75%が地域手当の非支給地域であり、「地域手当の支給地域との格差」がさらに拡大することになる

一時金については、国公の支給月数は0.1月引き上げとなり、4・20月(現行4・10月)となった。しかし、引き上げ分について、組合側の要求で「期末手当」による配分を求めていたに

「民間の支給状況を踏まえて「勤奨手当」に配分する」としたことは大きな不満が残る。また、県職員の一時金支給月数は現行で3・95月であり、県人勧での改定がなければさらに国との格差が広がることになる。地域手当だけではなく、一時金でも都市部と地方の格差

安倍自公政権は、今後、**県人事委員会勧告へ** これからのたたかいは

り、極めて問題だ。「**一時金の引き上げ分は「勤奨手当」にのみ配分**

もかわらず、人事院は「民間の支給状況を踏まえて「勤奨手当」に配分する」としたことは大きな不満が残る。また、県職員の一時金支給月数は現行で3・95月であり、県人勧での改定がなければさらに国との格差が広がることになる。地域手当だけではなく、一時金でも都市部と地方の格差

が開く状況となるため、改めて格差是正を求めていく必要がある。

7月28日の人勧中央行動  
 議決定し、秋に召集する臨時国会で給与法案を改正するもののみられる。今後「**たたかいは例年10月に出される「県人事委員会勧告」がポイントとなる。県**

戦後の今と戦前では、「人の命の重さ」が違っている。自民党の武藤貴也議員が発言した「『戦争に行きたくない』は利己的個人主義」という言葉を聞いて、このことに気づいた▼彼の発言は波紋をよんだが、おそらく、戦時中だったら、彼の発言をおかしいという人は少なかったのではないだろうか。国権が重視され基本的な人権が軽視されていた戦前は、国民の命は軽く扱われ、戦争で命が奪われることも国のためには仕方ないことだとされた▼今年、奥州市で演劇「千三の墓」が公演された。戦時中の岩手を舞台にした物語だ。息子が戦地に行くことを拒む母親に対し、「母ちゃん、自分のことばかり考えちゃだめだべ。おれも召集来たら立派にお国のために戦う」という息子の台詞があった▼武藤議員の発言と同じだ▼戦争中に生きた人たちは、私たちが異なる次元の人であつたわけでも、今よりも文化レベルが低かつたわけでもない。人より国が大事と教えられていただけである▼「人権」を尊重しない社会になれば戦争がまた正当化される。戦後70年の今、私たちの「人権」について考えていこう。

### 第五世代



全員の当選を訴える福島社民党副党首

た。意思統一し、必勝に向けて、団結がンパローで

平和環境  
県センター

# 「統一地方選」勝利へ決起集会

## 政治の流れ変えるため全員の当選を誓う！

8月8日(土)、平和環境県センターが主催する「統一地方選挙勝利総決起集会」が岩手県公会堂で開催され、250人を超える労働団体・市民が結集した。県内各地で県職労推薦候補の勝利に向けたたたかいが行われるが、特に盛岡地区は県政の要であり推薦候補の勝利が必須である。

主催者としてあいさつに立った平和環境県センターの砂金議長は前日の平野氏知事選出馬断念のニュースを受け、「平野氏の立候補断念は、戦争法案に反対し続けた私たちの運動の成果だ。県議選・盛岡市議選推薦候補全員の当選で岩手から政治を変えていこう」とあいさつ。激励に駆けつけた社民党・福島瑞穂副党首から国会報告を受け、「安倍政権は憲法解釈を歪めるばかりか、言論の自由を侵害するなど危険な内閣だ。戦争法案成立を阻止し、政治の流れを変えるためには、全員当選に向けて全力を挙げてほしい」と檄を飛ばした。その後、県議選立候補予定者「小西和子」さん、盛岡市議選立候補予定者「中村とおる」さん他2候補者から決意表明を受け、必勝に向けて、団結がンパローで意思統一した。

被爆70周年・原水禁福島大会

## 福島原発事故を忘れず、核廃絶・脱原発を確認

### 全国から850人がいわき市に集う

被爆70周年原水禁世界大会福島大会が8月1日、いわき市の平中央公園で開催され、東北各県をはじめ、全国各地から850人が参加した。2011年3月の東京電力福島原発第1号事故を機に、毎年福島で開催される、5回目の今年も事故の避難者が多く暮らすいわき市を会場として初めて開かれた。

原爆や東日本大震災の犠牲者などに黙とうをささげた後、主催者を代表し、川野浩一・大会実行委員長(原水禁議長)は、自ら長崎で被爆した経験をもとに「国家による原発被害に対する補償を明確にさせなければならぬ」と指摘、さ

らに「事故を解決しないまま原発再稼働させ、さらに戦争法案を成立させようとする安倍政権に反対し、断固として平和を守ろう」と訴えた。

地元あいさつに立った角田正志・福島県平和フォーラム代表も「いまだに11万人が県内外に避難し、苦しい生活を余儀なくされている。放射性廃棄物の最終処分場など何も決まっていない中で、政府は被害者に自立を強いて、補償を打ち切ろうとしている」と政府の姿勢を批判し、脱原発社会の実現を呼びかけた。また、開催地のいわき市の清水敏男市長からも歓迎のあいさつを受けた。大会にはアメ

リカ、ドイツ、韓国からも参加者があり、代表してドイツ緑の党の国会議員ベリン・ハインさん、インさん、ドイッから「ドイツでは原発の廃絶を決めたが、それは福島事故によって

原発に安全はあり得ないこと、廃棄物の処理にめどがないことが理由だ。そして、自然エネルギー推進で40万人の雇用を生み出した。これは平和への歩みだ」と強調した。

被爆者からの訴えとして、楯葉町からいわき市に避難している青木基・町会議員が、事故当時の混乱を生々しく語り、「避難先での病気悪化や孤独死などの災害関連死が1900人以上となり、直接死を上回っている。避難生活で家族の絆や地域の歴史・伝統が崩壊している。そうした中で楯葉町は9月にも避難指示の解除をしようとしているが、病院や介護などのインフラが完備しない中では生活が成り立たず、若い世代も戻ってこない。国は最後まで責任を持つべきだ」と国の責任を追及した。

毎年、全国の高中生が国連本部を訪ねて核廃絶を訴えている「高校生平和大使」に今年選ばれた白川高校の鈴木愛望さんは「被災地の



いわき市内をデモ行進する参加者

リカ、ドイツ、韓国からも参加者があり、代表してドイツ緑の党の国会議員ベリン・ハインさん、ドイッから「ドイツでは原発の廃絶を決めたが、それは福島事故によって

原発に安全はあり得ないこと、廃棄物の処理にめどがないことが理由だ。そして、自然エネルギー推進で40万人の雇用を生み出した。これは平和への歩みだ」と強調した。

被爆者からの訴えとして、楯葉町からいわき市に避難している青木基・町会議員が、事故当時の混乱を生々しく語り、「避難先での病気悪化や孤独死などの災害関連死が1900人以上となり、直接死を上回っている。避難生活で家族の絆や地域の歴史・伝統が崩壊している。そうした中で楯葉町は9月にも避難指示の解除をしようとしているが、病院や介護などのインフラが完備しない中では生活が成り立たず、若い世代も戻ってこない。国は最後まで責任を持つべきだ」と国の責任を追及した。

毎年、全国の高中生が国連本部を訪ねて核廃絶を訴えている「高校生平和大使」に今年選ばれた白川高校の鈴木愛望さんは「被災地の

被爆者からの訴えとして、楯葉町からいわき市に避難している青木基・町会議員が、事故当時の混乱を生々しく語り、「避難先での病気悪化や孤独死などの災害関連死が1900人以上となり、直接死を上回っている。避難生活で家族の絆や地域の歴史・伝統が崩壊している。そうした中で楯葉町は9月にも避難指示の解除をしようとしているが、病院や介護などのインフラが完備しない中では生活が成り立たず、若い世代も戻ってこない。国は最後まで責任を持つべきだ」と国の責任を追及した。

毎年、全国の高中生が国連本部を訪ねて核廃絶を訴えている「高校生平和大使」に今年選ばれた白川高校の鈴木愛望さんは「被災地の

被爆者からの訴えとして、楯葉町からいわき市に避難している青木基・町会議員が、事故当時の混乱を生々しく語り、「避難先での病気悪化や孤独死などの災害関連死が1900人以上となり、直接死を上回っている。避難生活で家族の絆や地域の歴史・伝統が崩壊している。そうした中で楯葉町は9月にも避難指示の解除をしようとしているが、病院や介護などのインフラが完備しない中では生活が成り立たず、若い世代も戻ってこない。国は最後まで責任を持つべきだ」と国の責任を追及した。

## 青 婦 部 夏 交 流 会

### 「美味しい料理」と「スイーツ」をつぶつぶマザー・伊藤信子さん講師に食生活を学ぶ

7月25日、青年婦人部は、盛岡市内で「夏の交流会」を開催し、5支部25人の仲間が集まった。参加した未加入新採用者3人も、組合に加入し、新たに仲間も増えた。

交流会では「岩手いのちのアトリエ主宰・つぶつぶマザー伊藤信子さん」を講師に、つぶつぶスイーツを食べながら食生活について振り返る「健康でおいしいスイーツセミナー」や、組合の意義や働くものの考え方を学ぶ「ミニ学習」、普



伊藤信子さん

段気になっていることを出し合う「分散会」を行った。人員不足と賃金抑制により大変な職場が増えているので、仲間が体調を崩さず元気に働き続けられるようにしたいと、確認しあった。

▼なかなか他地区の方とも会う機会がないので、非常に楽しい時間を過ごさせてもらいました。特に地方派遣には息抜きにもなり、ありがたい機会です。(宮古支部 大石祐二)

### 参加した仲間から寄せられた感想

▼他の部署の先輩方のお話を聞き、たくさんアドバイスをいただきました。今後役立てていきたいと思いました。(花巻支部 近谷風美)

### 先輩を交えた意見交換

▼今回の交流会でも、普段あまり接点のない他所の方々と話すことができ、い



先輩を交えた意見交換



つぶつぶマザー・伊藤信子さんの実演の様子

宮古組で仲良くなれたような気がします。(宮古支部 上村 僚)

▼今回、初めて他支部のみなさんと交流する機会になりました。新鮮な気持ちになりました！(胆江支部 鎌田郁美)

先輩も初めて出会うタイプの方が多く楽しい雰囲気にもホッとしました。今度また機会があれば参加してみたいと思いました。(胆江支部 藤原 綾)

## 青年婦人部の物販にご協力を!

金沢名物 50個限定 1箱1,000円 「濃厚中華そば」はいかが?

8月22日~23日石川県で開催の自治労青年部第60回定期総会の現地実行委員会への運営カンパの一環として、「物販」を取り組めます。「濃厚中華そば(神仙しんせん)」(ラーメン4食・スープ入り)は、1箱税込で1,000円です。50個限定販売です。お求めは、県職労本部又は各支部まで(先着順とし、なくなり次第終了します)。

有意義でした。特に、先輩方の辛い体験談等が今後の心構えになりました。(宮古支部 村井凍太郎)

▼夏の交流会では新しくいろんな人と接点を持つことができましたのでよかったです。